

経済原論 I (麻生) 復習問題

2019/09/17 revised

1. 経済学入門

Keywords

ミクロ経済学, マクロ経済学, マクロ経済学の 2 つの潮流 (ケインズ経済学, 古典派経済学), 機会費用, 比較優位, 絶対優位, 限界便益, 限界費用, 消費者余剰, 生産者余剰, 市場の失敗

2. マクロ経済学の基礎

Keywords

経済循環図, 財市場, 貸付資金市場, GDP, 付加価値, 中間投入物, 資本減耗, 実質 GDP, 名目 GDP, 物価指数, 消費者物価指数, GDP デフレーター, 実質利子率, 名目利子率, フィッシャー方程式, フィリップス曲線

問題

1. 財市場が均衡する場合, 必ず貸付資金市場が均衡し, その逆も成立することを示せ。

3. 古典派モデル (閉鎖経済モデル)

Keywords

生産関数, 規模に関する収穫一定, 労働の限界生産物, 資本の限界生産物, 消費関数, 投資関数

問題

1. 家計の保有する生産要素は労働と資本であり, その量は一定であるとする。生産要素が完全雇用されるとすると, 財の供給量はどうか。
2. 財の需要 Y^d は消費 C , 投資 I , 政府支出 G からなるとする。消費関数は $C = c(Y - T)$ で与えられ, 投資関数は $I = I(r)$ で与えられる。ただし, T は租税負担, r は利子率, c は (平均) 消費性向である。また, 政府支出 G は一定であるとする。このとき, 財市場の均衡を実現する Y や r はどのように決まるか。グラフを用いて説明せよ。

3. 租税負担は一定で政府支出を増加させた。このとき, Y, C, I, r はどうか変化するか。
4. 政府支出は一定で減税を行った。このとき, Y, C, I, r はどうか変化するか。
5. 消費関数が税引き後恒常所得に基づいて行われるとしよう。さて, 一時的減税とは政府支出は一定で, 一時的に減税を行い, 将来赤字の穴埋めをするための増税を行う政策である。ただし, 税負担の割引価値の合計は不変で, したがって, 税引き後恒常所得を変化させない。一方, 恒常的な減税とは, 恒常的に税負担を減少させるものである(このためには政府支出も同額だけ恒常的に減少しなければならない)。一時的減税と恒常的な減税は Y, C, I, G, r にどのような影響を与えるだろうか。

4. 古典派モデルにおける物価の決定

Keywords

貨幣数量説, 貨幣の流通速度, マネーストック, マネタリーベース(ベースマネー, ハイパワードマネー), 貨幣乗数

5. ケインジアン・モデル (所得・支出モデル)

Keywords

ケインズ型消費関数, 限界消費性向, 平均消費性向, 乗数, 政府支出乗数, 減税乗数, 均衡財政乗数(均衡予算乗数)

問題

1. ケインズ型消費関数とはどのようなものか。式とグラフで表せ。
2. ケインズ型消費関数のグラフで, 限界消費性向と平均消費性向はどこで表されるか示せ。
3. 財の需要が $Y^d=C+I+G$ で表される。政府支出 G と投資支出 I は一定で, 消費 C はケインズ型消費関数によって決まるとする。均衡産出量がどのように決まるか, 式とグラフで説明せよ。
4. 財市場において超過供給や超過需要がある場合, 均衡への調整はどのように行われると想定されるか。
5. ケインジアン・モデルにおいて, 国債を発行して 1 兆円の公共事業を追加する場合と, 政府支出は不変で 1 兆円の減税を行った場合で, どちらの景気浮揚効果が大きいと考えられるか。
6. 限界消費性向が 0.6, 0.7, 0.8 の場合について, 政府支出乗数および減税乗数の大きさを求めよ。

7. [節儉のパラドックス(儉約のパラドックス)] 消費関数 $C(Y-T)=C_0+c(Y-T)$ で与えられている。ある時、 c の大きさは変わらないが C_0 の値が突然低下した。これは均衡国民所得にどのような影響をもたらすか。 C_0 の値は変わらず c の値だけが突然低下した場合はどうか。(この問題の想定は、任意の可処分所得の水準で人々がより儉約的になったことを想定している。これは、個々人にとっては美德であるが、社会全体にとっては望ましくない結果をもたらす。)
8. 政府支出乗数や減税乗数の大きさと限界消費性向の間にどのような関係があるか。それはなぜか。
9. なぜ政府支出乗数の方が減税乗数よりも大きいのか。
10. 比例的所得税が存在する場合の政府支出乗数の大きさを求めよ。
11. 国際貿易の存在する場合を考える。自国財の需要を式で表し、自国財の需要と供給が一致する条件を求めよ。
12. 輸出は一定で、輸入が可処分所得の関数であるモデルを考える。この場合の政府支出乗数の大きさを式で求めよ。

6. ケインジアン・モデル (IS-LM モデル)

Keywords

IS 曲線, LM 曲線, 貨幣需要関数, IS-LM モデル, 流動性のわな
問題

1. 一般に、利子率と投資支出の関係をグラフで表せ。
2. 異なる利子率のもとで異なる投資の水準が実現する。このことをもとに、利子率と均衡国民所得の関係を 45 度線モデル(所得・支出モデル)を用いて導き、グラフで表せ。
3. 限界消費性向が大きいと IS 曲線の傾きは緩やかになるか、急になるか。
4. 投資の利子弾力性が大きいと IS 曲線の傾きは緩やかになるか、急になるか。
5. 政府支出の拡大は、IS 曲線の位置をどう変化させるか。
6. 減税は IS 曲線の位置を変えるか。
7. 将来の見通しが楽観的になり、任意の利子率の水準のもとでの投資の大きさが増加したとする。これは IS 曲線の位置にどのような影響を与えるか。
8. 貨幣市場の均衡条件から LM 曲線を導け。
9. 貨幣供給量の増加は LM 曲線の位置をどう変化させるか。

10. 貨幣需要が利率に関して非弾力的(利率が低下しても貨幣需要はそれほど増えない)だとする。貨幣需要が利率弾力的なケースに比べ、LM 曲線の形状はどうなるだろうか。

以下の問題 11.から 14.では、IS-LM モデルを前提にして答えること(名目利率と実質利率の区別は必要ない:インフレ率一定の仮定)。

11. 政府支出の増加が、所得 Y 、消費 C 、投資 I 、利率 r に与える効果を述べなさい。
12. 減税が、所得 Y 、消費 C 、投資 I 、利率 r に与える効果を述べなさい。
13. 貨幣供給の増加が所得 Y 、消費 C 、投資 I 、利率 r に与える効果を述べなさい。
14. デフレーションの進行で、(名目)利率が非常に低くなっているとす。これは、貨幣保有の機会費用にどのような影響をもたらすか。
15. [流動性のわな]前の問題のようなケースで貨幣供給量を増やしても所得を増加させる効果は期待できないと主張される場合がある。それはなぜか。

7.ケインジアン・モデル (AD-AS モデル)

Keywords

フィリップス曲線, 短期フィリップス曲線, 長期フィリップス曲線, オークンの法則, 総需要曲線, 総供給曲線, 短期総供給曲線, 長期総供給曲線, 名目賃金硬直モデル, 労働者錯誤モデル (Friedman=Phelps モデル), 一般物価水準と個別価格の混同 (Lucas モデル)

問題

1. AD 曲線をグラフで表せ。AD 曲線はなぜ右下がりか。
2. AD 曲線は、ある変数を一定にした上で導かれたものである。それは何か。
3. 政府支出の増加, 減税, (名目)貨幣供給量の増加は AD 曲線の位置をどう変化させるか。
4. 名目賃金が何らかの理由で硬直的な世界を考えよう。この場合, 物価水準の上昇は産出量水準の上昇をもたらす。すなわち, 短期総供給曲線 (AS 曲線) が観察される。このメカニズムを説明せよ。
5. 一般物価水準と個別価格を混同するために, 短期的に物価水準 P と産出量 Y の間に正の相関が見出されるとする Lucas のモデルを説明せよ。
6. Lucas モデルが成立すると仮定しよう。このとき, インフレーションの激しい国と, 物価水準が相対的に安定している国では, どちらの国の短期総供給曲線の傾きが急だろうか。(hint: どちらの国でインフレーションと個別価格の混同がおこりやすいだろうか。)

7. AD-AS モデルを前提にして答えよ。政府支出の増加, 減税, 貨幣供給量の増加が, 所得 Y , 消費 C , 投資 I , 利率 r (期待インフレ率は一定とする), 物価水準 P にどのような影響を与えるか。短期的効果と長期的効果にわけて説明せよ。
8. 資金の貸借の契約が名目額に基づいて行われていたとしよう。ここに, 予期しないデフレーションが発生したとする。これは, 債権者と債務者にどのような影響をもたらすと考えられるか。
9. 前の問題で, 債務者の消費性向(または支出性向:消費+投資と所得の割合)の方が債権者のそれよりも高いものとしよう。このとき, デフレーションは経済全体の支出にどのような影響を与えるだろうか。
10. デフレーションが生じている経済で, 所得税がデフレに応じて改定されない状況を考えよう。このような社会では, デフレーションは実質的税負担にどのような影響を与えるだろうか。
11. デフレーションの弊害にどのようなものがあるだろうか。
12. デフレーションを克服するために, 政府支出の拡大が必要だと主張する人がいる。なぜ, 政府支出の拡大がデフレーションを阻止するのだろうか。このような主張はどのようなモデルに基づいているのだろうか。
13. 古典派モデル(長期均衡モデル)では, 貨幣数量説が物価の決定を説明するモデルである。このモデルが成立するとき, 政府支出の拡大は物価水準を上昇させるだろうか。デフレーションの克服のためにはどのような手段が必要だろうか。

8.消費関数・投資関数

Keywords

恒常所得仮説, ライフサイクル仮説, 新古典派投資関数, 資本コスト,

問題

1. 恒常所得仮説が成立すると, 一時的な減税は消費を刺激するだろうか。
2. 高齢化の進展は, 経済全体の消費性向にどのような影響を与えるだろうか。ライフサイクル仮説を前提にして説明せよ。
3. いろいろな世帯の所得と消費の関係を調査したとこと, 所得の高い世帯ほど平均消費性向の低いことが観察された。この観察をもとに, 「高所得者から低所得者に所得移転を行えば, 経済全体として消費が拡大し, 景気浮揚に効果がある」とある学者が主張した。恒常所得仮説を用いて, この学者の議論に反論せよ。

4. ケインジアン・モデルでは、無駄な公共事業も有益な公共事業も、どちらも(短期的にだが)乗数倍だけ所得を増加させる。ここでは、完全雇用を前提にした長期均衡モデルでこの問題を考える。無駄な公共事業は将来の産出量を拡大させず費用だけかかるものとしよう。有益な公共事業は将来の産出量を拡大させ、その効果は費用を補って余りあるものであるとする。それでは、無駄な公共事業と有益な公共事業は、人々の恒常所得と消費にどのような影響をもたらすだろうか。
5. 消費税が来年4月から5%ポイント引き上げられるとしよう。消費税の引上げ時期の以前と以後で家計の消費行動にどのような影響がでるだろうか。食料品に対する支出と自動車や耐久消費財への支出では異なる影響がでるだろうか。
6. 政府は、1年間に限り、その期間内に行われた投資の一定割合だけ税金を控除するという政策を発表した。この投資優遇政策は、その政策が実施される期間、およびそれ以前と以後の投資にどのような影響をもたらすか。

9.財政赤字

Keywords

プライマリー収支(基礎的財政収支), ドーマーの命題, 政府の通時的予算制約, リカードの等価定理, 課税平準化, 世代会計

問題

1. 2期間からなる世界を考える。政府の通時的な予算制約式を求めよ。
2. 上の問題で政府支出の経路は一定だとする。政府が第1期に減税を行うと、第2期には増税を行わなければならないが、その大きさを求めよ。
3. リカードの等価定理とは何か。
4. リカードの等価定理は現実の世界では成立しないと考えられている。どのような原因があるか。
5. 財政赤字はどのような意味で問題か。
6. 利子率と経済成長率が一定の世界を考える。国債残高 GDP 比率を一定に保つためには、毎年、どの程度のプライマリー収支の黒字が必要か。
7. 公的年金や公的医療保険制度には隠れた債務がある。これを説明せよ。

10.経済成長

Keywords

Solow モデル, 規模に関する収穫一定, 資本労働比率, 定常状態, 黄金律, 動学的効率性, 動学的非効率性, 技術進歩

問題

1. Solow モデルにおいて定常状態がどのように決まるか, 式とグラフを用いて説明せよ。
2. Solow モデルにおいて貯蓄率の上昇は, 長期的に(新しい定常状態での)労働者一人当たり産出量をどう変化させるか。
3. Solow モデルにおいて労働力人口増加率の低下は, 長期的に(新しい定常状態での)労働者一人当たり産出量をどう変化させるか。
4. 黄金律とは何か説明せよ。
5. 経済の資本蓄積の水準が黄金律未満であるとする。この場合, どのような政策が長期的に望ましいか。